

JAMAGAZINE

Japan Automobile Manufacturers Association

2016. August

50



特集 女性活躍社会に向けて

一般社団法人 日本自動車工業会



時間に縛られない自由さが
クルマの心地よさ。

寄り道は
クルマならではの
旅の楽しみ！

思わぬところで、
えっ、スゴイ！って感動や、
なにコレ？っていう驚きや、
ワ～っ！っていう楽しみに会える。

素敵なワクワクを
たくさんみつけよう！

さあクルマで、
Let's YORI-MICHI Drive!

安全運転で楽しいドライブ!!

クルマの正しく安全な使い方については <http://www.anzen-unten.com>

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

CONTENTS

特集 女性活躍社会に向けて

第4次男女共同参画基本計画の概要と理工系分野における取組 2

／内閣府 男女共同参画局 推進課

女性活躍推進法について 7

／厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 雇用均等政策課

「めざせ！未来のエンジニア 理系女子・男子応援プロジェクト」活動について 12

／一般社団法人 日本自動車工業会 労務委員会

連載 クルマの楽しさ、素晴らしさは 第78回

クルマの中身を勉強しよう——自動車工学教材の世界 18

／JAMAGAZINE編集室

記者の窓

「業界のすそ野の広さを痛感」 21

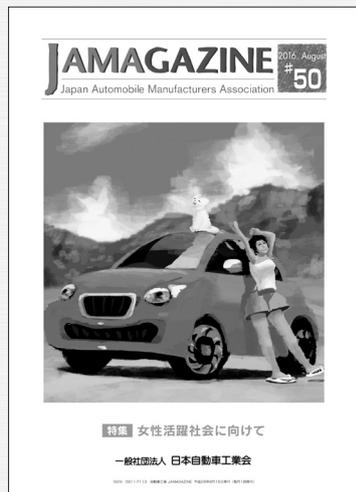
／日刊工業新聞社 山田 諒

Topics

●会長コメント ・第3次安倍第2次改造内閣の発足について 22

●一般社団法人 日本自動車工業会 役員名簿

●「第4回 BIKE LOVE FORUM in 兵庫・神戸」を開催



表紙イラストレーション

クルマのある風景

くすみ ゆい
楠見 唯

武蔵野美術大学 造形学部
視覚伝達デザイン学科 4年

ドライブの道中、夏の日差しを浴びて輝く
自動車を描きました。未来を感じさせる「光」
がポイントとなっています。

『JAMAGAZINE』では表紙に、美術を
専攻している大学生などの皆さんの作
品を掲載しています。

第4次男女共同参画基本計画の概要と 理工系分野における取組

内閣府 男女共同参画局 推進課

1. はじめに

女性も男性もすべての個人が互いを尊重し、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は、日本社会の多様性と活力を高め、力強く発展していくために極めて重要となっています。その中でも理工系をはじめとした科学技術・学術分野においては、社会のさまざまな課題を解決するうえで多様な視点が求められており、その意味でも女性研究者・技術者の活躍は大きく期待されるところです。ここでは、男女共同参画社会形成を促進するための男女共同参画基本計画の概要と、それに基づく理工系分野における女性活躍推進の取組について述べていきます。

2. 第4次計画の目指すべき社会

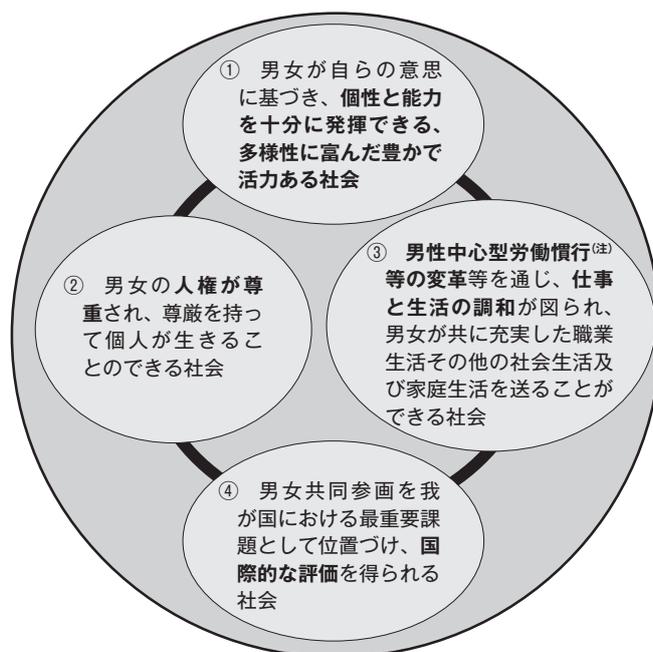
男女共同参画局では、男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）第13条に基づき、5年ごとに男女共同参画基本計画を策定し、政府一体となった取組を総合的かつ計画的に推進しています。

平成27年12月25日に閣議決定された第4

次男女共同参画基本計画（以下「第4次計画」という。）では、平成37年度末までの「基本的な考え方」並びに平成32年度末までを見通した「施策の基本的方向」及び「具体的な取組」を定めています。

第4次計画では、「目指すべき社会」として、図1にある4つの社会を位置づけています。

図1●目指すべき社会



出典：内閣府

(注) 男性中心型労働慣行：勤続年数を重視しがちな年功的な処遇の下、長時間勤務や転勤が当然とされている男性中心の働き方等を前提とする労働慣行

3. 第4次計画の主な特色

(1)政策領域及び政策領域目標の新設

第4次計画における政策目的を明確化し効果的な推進を図るため、図2のⅠ～Ⅳの4つの政策領域を大きな柱として定めるとともに、71の成果目標の中から重点的に監視・評価すべき14項目の政策領域目標を新たに設け、実効性のあるフォローアップを行うこととしています。

(2)12の個別分野と推進体制

政策領域Ⅰ～Ⅲの下には、重点的に取り組む12の個別分野を設け、「Ⅳ推進体制の整備・強化」と併せて4つの政策領域の下に、計71の成果目標を設定し、実効性のある具体的な取組を進めることとしています。

図2●4つの政策領域と12の個別分野・推進体制

| | |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 政策領域Ⅰ あらゆる分野における女性の活躍 | ① 男性中心型労働慣行等の変革と女性の活躍 |
| | ② 政策・方針決定過程への女性の参画拡大 |
| | ③ 雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和 |
| | ④ 地域・農山漁村、環境分野における男女共同参画の推進 |
| | ⑤ 科学技術・学術における男女共同参画の推進 |
| 政策領域Ⅱ 安全・安心な暮らしの実現 | ⑥ 生涯を通じた女性の健康支援 |
| | ⑦ 女性に対するあらゆる暴力の根絶 |
| | ⑧ 貧困、高齢、障害等により困難を抱えた女性等が安心して暮らせる環境の整備 |
| 政策領域Ⅲ 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備 | ⑨ 男女共同参画の視点に立った各種制度等の整備 |
| | ⑩ 教育・メディア等を通じた意識改革、理解の促進 |
| | ⑪ 男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立 |
| | ⑫ 男女共同参画に関する国際的な協調及び貢献 |
| Ⅳ 推進体制の整備・強化 | |

出典：内閣府

(3)主な特色

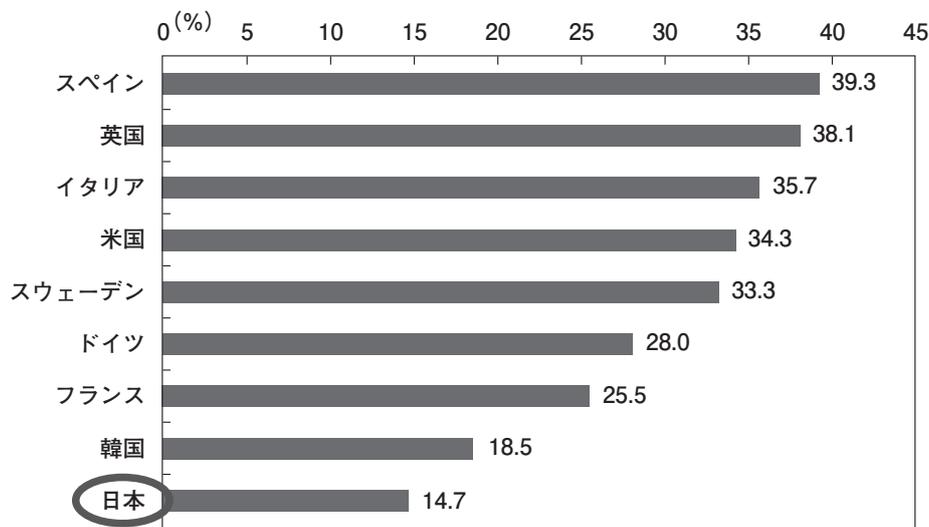
- ・女性の活躍のためにも男性の働き方・暮らし方の見直しが欠かせないことから、計画全体にわたる横断的視点として、「男性中心型労働慣行等の変革と女性の活躍」を第1分野に位置づける
 - ・あらゆる分野における女性の参画拡大に向けた、女性活躍推進法の着実な施行やポジティブアクションの実行等による女性採用・登用のための取組及び将来指導的地位へ成長していくための人材の層を厚くするための取組を進める
 - ・困難な状況におかれている女性についても、きめ細やかな支援が必要であることから、そのための環境整備を図る
 - ・東日本大震災後の経験と教訓を踏まえ、防災・復興関連施策の充実のため「男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立」として分野を独立させる
 - ・女性に対する暴力の状況の多様化に対応しつつ、女性に対する暴力の根絶に向けた取組を強化する
 - ・国際的な規範・基準の尊重に努めるとともに、国際社会への積極的な貢献、わが国の存在感及び評価を向上させる
 - ・地域の実情を踏まえた主体的な取組が展開されるための地域における推進体制を強化する
- などを盛り込んでいます。

4. 理工系分野における女性活躍に向けて

(1)科学技術・学術分野の女性参画の現状と政府の方針

科学技術・学術分野における男女共同参画は第4次計画でも第5分野に掲げられており、女性研究者・技術者の活躍は、わが国が持続的な成長を確保し、さらにイノベー

図3●諸外国の研究者に占める女性の割合



出典：総務省「科学技術研究調査」(平成27年)、OECD “Main Science and Technology Indicators”、米国国立科学財団(National Science Foundation : NSF) “Science and Engineering Indicators 2016” より作成
 ※日本の数値は、2015(平成27)年3月31日現在の値。韓国は2014(平成26)年値、その他の国は2013(平成25)年値。推定値及び暫定値を含む。
 ※米国の数値は、雇用されている科学者(Scientists)における女性割合(人文科学の一部及び社会科学を含む)。技術者(Engineers)を含んだ場合、全体に占める女性科学者・技術者割合は29.0%。

ションの創出によって社会のさまざまな問題を解決していくうえで、極めて重要です。しかしながら、わが国における女性研究者の割合は増加傾向にはあるものの、図3に示す通り、欧米各国における割合は30%前後であるのに対し、わが国は14.7%と、諸外国に比べて低い水準にとどまっています。

また、次代の研究職・技術職を担う大学学部生の専攻分野別男女比率を見た場合、図4のように薬学・看護学等及び人文科学等においては女性比率が50%を超えている一方で、理学及び工学については、それぞれ26.8%、13.6%となっています。

このような現状を踏まえ、第4次計画においては、第5分野に「科学技術・学術における男女共同参画の推進」を掲げ、同分野における女性の参画拡大、女性研究者・技術者が働き続けやすい研究環境の整備、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成に積極的に取り組むこととしています。また、この4月からスタート

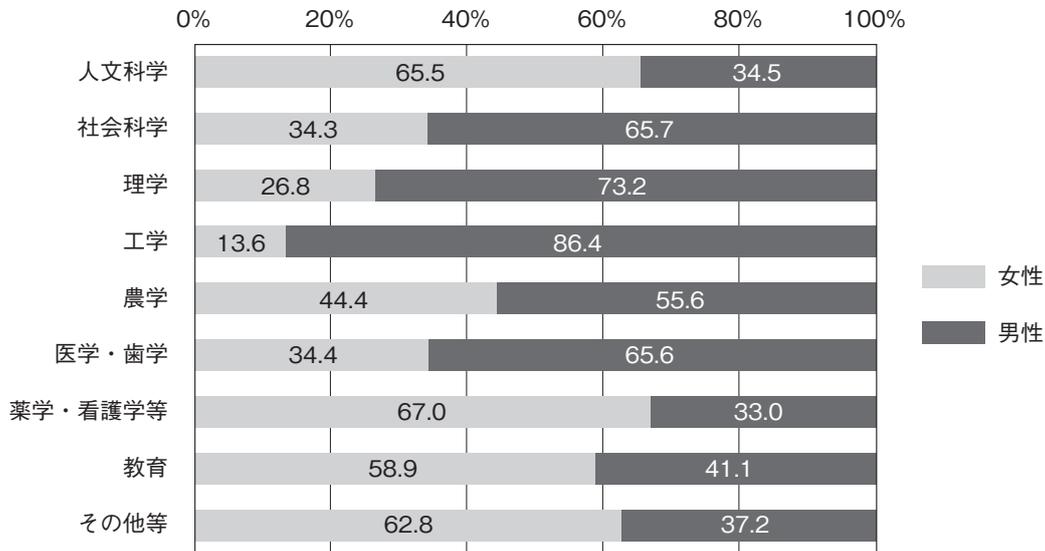
した第5期科学技術基本計画においても第4次計画と同様に、「研究者の採用に占める女性の割合(自然科学系)」の数値目標を掲げるなど、女性研究者の活躍は重要事項として位置づけられました。さらに、この5月にすべての女性が輝く社会づくり本部において決定された「女性活躍加速のための重点方針2016」においても、女性の理工系人材の育成を積極的に進めていくこととしています。

(2)男女が働き続けやすい環境の整備

女性のみならず男性の研究者・技術者にとっても、能力を十分に発揮して高い成果を上げるためには、研究と生活の調和や育児・介護等からの円滑な復帰など働き続けやすい環境を整備することが重要です。

そこで、第4次計画においては、「研究活動と育児・介護等の両立に対する支援及び環境整備」を掲げ、出産・育児などといったライフステージにおいても働き続けられる、または、復帰しやすい

図4●専攻分野別に見た学生の割合（大学学部生）



出典：文部科学省「平成27年度学校基本調査」より作成

研究環境の整備を進めていくこととしています。

- 具体的には、大学や研究機関、企業等において、
 - ・男女の研究者・技術者が仕事と育児・介護等を両立できるようにするため、長時間労働の解消、短時間勤務やフレックスタイム勤務、テレワークによる多様な働き方等を進める
 - ・両立支援制度やキャリアプラン、育児・介護等に関する総合相談窓口の設置を促進する
 - ・国からの補助金を受けた研究から一時的に離れざるを得ない場合においても、研究期間の延長や代行者・支援者によって研究を継続できるようにする。また、IT環境の整備や、学会への参加支援等を行う
- などを挙げています。

また、女性研究者・技術者の継続就業や研究力向上に向けて、女性研究者・技術者のネットワーク形成やメンター制度の導入、ロールモデル情報の提供、ハラスメントのない職場環境の整備等についても進め、さらに、他の研究機関などの好事例を共有するなど、さまざまな取組を、文部科

学省をはじめとした関係府省と連携して進めていくこととしています。

(3)女子生徒等の理工系進路選択の促進

前述の通り、大学学部生の専攻分野別男女比率には偏りが見られます。これにはさまざまな要因が挙げられますが、「理工系分野は男性の仕事である」や「研究室に寝泊まりしなければならない」などといった先入観や固定的な性別役割分担意識、さらには、そもそも進路の選択肢として、理工系分野が範疇にないことも考えられます。また、男女を問わず、進路選択の際には保護者や教員等に相談することが多いとの調査結果もあることから、女子生徒本人だけでなく、保護者や教員といった身近な人についても理工系分野への理解を深めていただく必要があります。

そこで、第4次計画においては、産学官が連携して、科学技術を身近に感じられるための取組を進めるとともに、理工系への進路選択がどのようなキャリアにつながるかについて十分な情報提供

を行うこととしています。

一例として、内閣府では女子生徒等が理工系進路を選択するのに必要な情報や機会を提供する取組として「理工チャレンジ（リコチャレ）」を進めています。この取組に賛同する産学官の団体を「リコチャレ応援団体」として募り、団体からのメッセージや理工系先輩女性からのメッセージ、理工系及び理工系職業への理解を促進するイベント情報をWebサイトで発信してきました。またこの4月から、「リコチャレ応援団体」のうち、賛同だけではなく自ら女子生徒等の支援を進めている団体を「理工系女子応援ネットワーク」という一段上の団体として登録いただき、ネットワーク内各団体の相互連携や情報交流の強化を図る枠組みを新たに導入しています。さらにこの夏には、「夏のリコチャレ2016」を開催しています。これは、内閣府・文部科学省・日本経済団体連合会（経団連）の共催で、夏休み期間に産学官の団体が主催する約130以上の関連イベントを取りまとめて一元的に情報発信することで、マスコミ報道等を通じて女子生徒等の参加を促進し、社会の気運の醸成を図ったものです。

進路は本人の意思に委ねられるべきものですが、情報の不足や心理的な理由によって意思が妨げられているとすれば、その障害は取り除く必要があります。そのため、進路選択のひとつとして、科学技術・学術分野（特に理工系分野）での活躍を女子生徒等にしっかりと情報提供していきます。

5. おわりに

本格的な人口減少社会を迎える中、日本社会の持続的発展のためには、女性の活躍は極めて重要な政策課題です。理工系分野をはじめとする科学技術・学術分野においては、女性の参画がまだまだ少ない状況にありますが、一方で、特に若手の女性研究者・技術者の方々とお話をする中で、研究や技術の仕事に携わる魅力を語る声もよくお寄せいただいています。今後も産学官各団体のご協力をいただきながら、第4次計画に掲げた施策を実行し同分野における女性の活躍を着実に進めてまいります。

（ないかくふ）

女性活躍推進法について

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 雇用均等政策課

1. 女性活躍推進法の成立にあたって

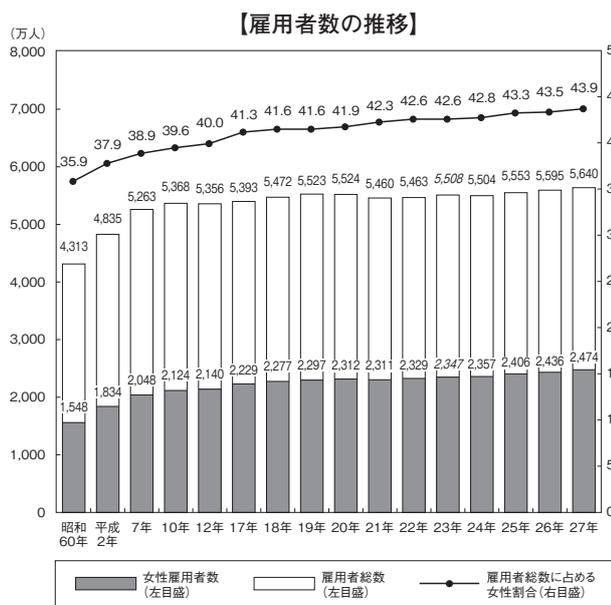
(1)背景

女性雇用者は着実に増加しているものの、就業を希望していながら働いていない女性（女性の非労働力人口のうち就業希望者）は約300万人に上り、第一子出産を機に約6割の女性が離職するなど出産・育児を理由に離職する女性は依然として多いと言えます（図1）。

また、雇用形態をみると、女性は出産・育児等による離職後の再就職にあたって非正規雇用労働者となる場合が多いことなどから、女性雇用者の半数以上は非正規雇用労働者として働いています（図2）。

さらに、管理職に占める女性の割合は、近年上昇傾向にあるものの、欧米諸国のほか、アジア諸国と比べても低い状況にあり、わが国では、働く場面において女性の力が十分に発揮できているとはいえない状況にあります（図3）。

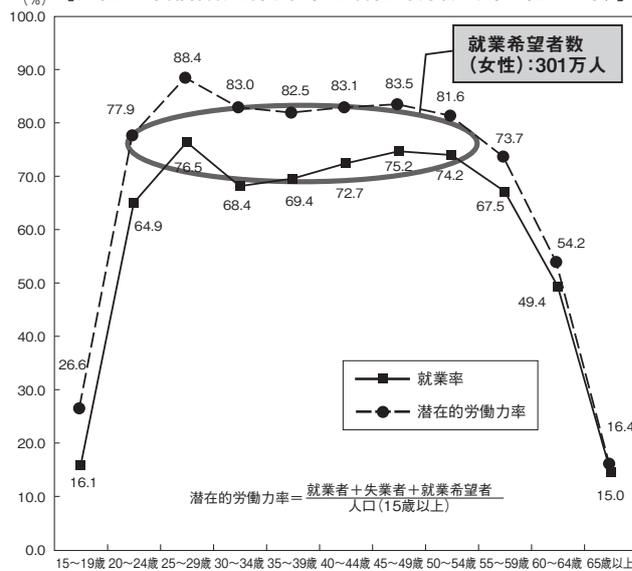
図1●女性雇用者数と女性の年齢階級別就業率



※平成23年統計については、平成17年国勢調査結果を基準（旧基準）とする推計人口をベンチマークとして、東日本大震災の影響により3月から8月までを補完推計した参考値によって求めた値である。
 (注)平成23年の数値（斜体）は、同補完推計値について平成22年国勢調査結果を基準とする推計人口で適及推計した値。

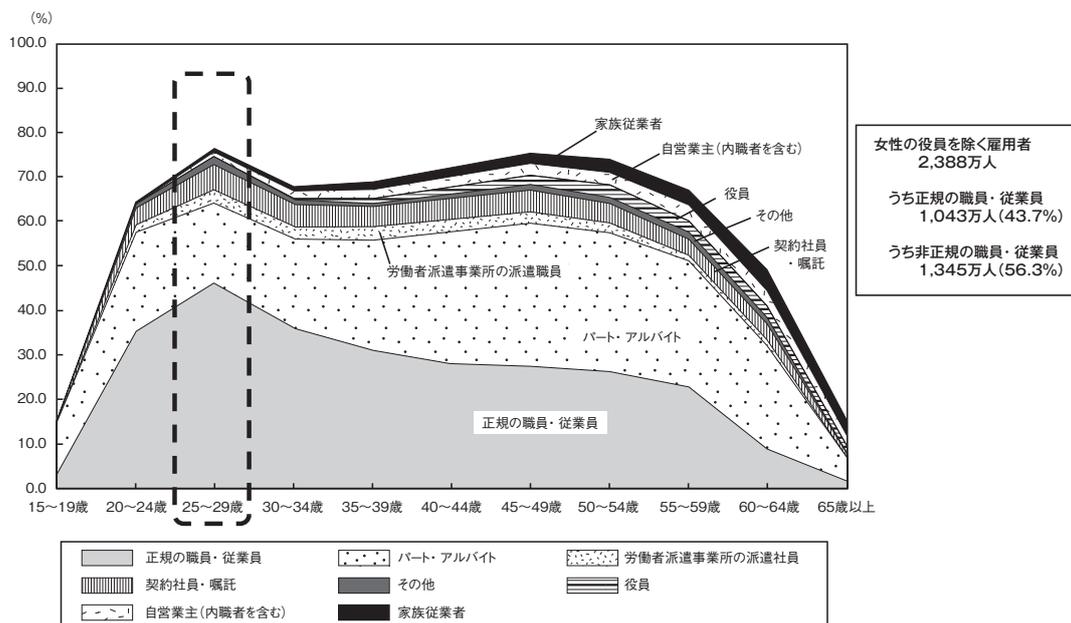
出典：総務省統計局「労働力調査」

【女性の年齢階級別就業率と潜在的労働力率（2015年）】



出典：総務省統計局「労働力調査」、「労働力調査（詳細集計）」（平成27年）

図2●女性の年齢階級別就業形態



出典：総務省統計局「労働力調査（基本集計）」（平成27年）

一方、わが国は急速な人口減少局面を迎え、将来の労働力不足が懸念されている中で、国民のニーズの多様化やグローバル化等に対応するためにも、企業等における人材の多様性（ダイバーシティ）を確保することが不可欠となっており、女性の活躍の推進の重要性が高まっています。

(2)経緯

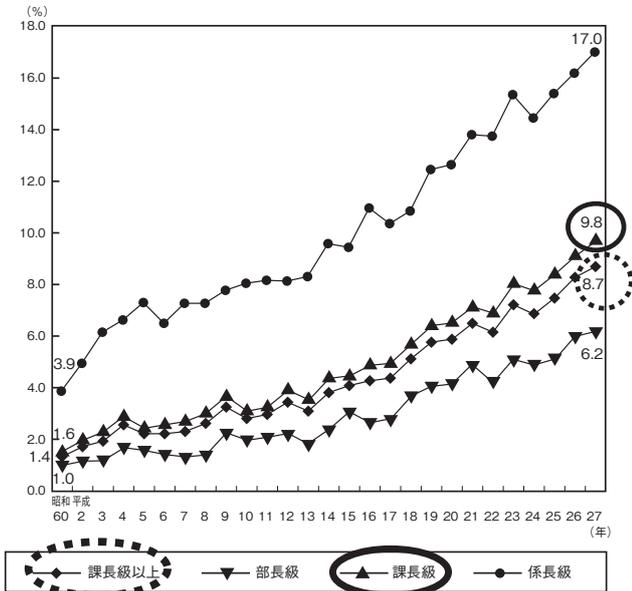
こうした中、平成24年12月に発足した第2次安倍内閣では、女性の力を「わが国最大の潜在力」として成長戦略の中核に位置づけ、『『日本再興戦略』改訂2014』（平成26年6月閣議決定）に、女性の活躍推進に向けた新たな法的枠組みの構築を盛り込みました。これに基づき、政府は、働くことを希望する女性が、働く場面においてその個性と能力を十分に発揮して活躍できるよう、国や地方公共団体が必要な施策を策定・実施することに加え、事業主が女性の活躍推進に向けた取組を自ら実施することを促すための枠組みについて定めた「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律案」を平成26年度秋の臨時国会に提出しました。

その後、同法案は衆議院の解散により廃案になりましたが、平成27年の通常国会に再提出し、与野党による修正のうえで、衆・参両議院において可決、平成27年8月28日に成立しました。今年度4月1日より、全面施行されています。

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（平成27年法律第64号。以下「女性活躍推進法」という。）は、現在働いていないが就業を希望する女性、責任ある立場で働きたいけれども家庭生活との両立が困難であるがゆえに昇進をあきらめている女性、正社員として働くことにチャレンジしたい女性など、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、極めて大事なエンジンとして機能することが期待されています。さらに、女性が活躍できる場を充実させることにより、男女がともに仕事と生活を両立でき、すべての人にとって暮らしやすい、さらには豊かで活力ある持続可能な社会の実現にもつながるものと考えられます。

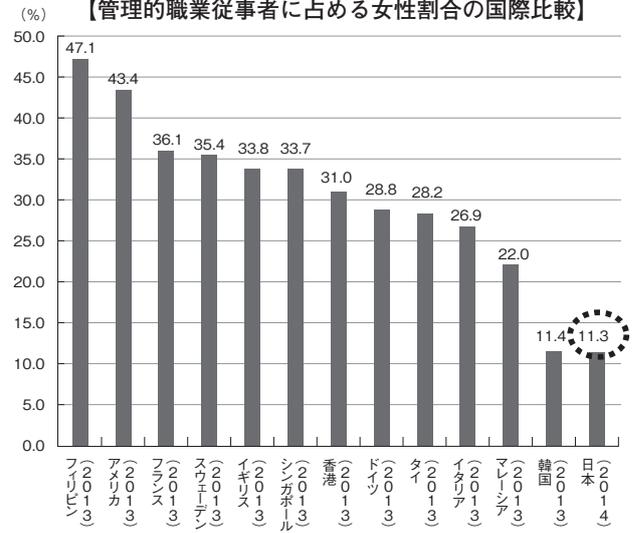
図3●管理職に占める女性割合

【役職別管理職に占める女性割合の推移(企業規模100人以上)】



出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より、厚生省雇局局作成

【管理的職業従事者に占める女性割合の国際比較】



(注1) 日本及びアメリカの分類基準 (ISCO-08) とその他の国の分類基準 (ISCO-88) が異なるので、単純比較は難しいことに留意が必要。
 (注2) ここでいう「管理職」は、管理的職業従事者(会社役員や企業の課長相当職以上や管理的公務員等)をいう。
 (注3) 割合は、管理的職業従事者のうち女性の占める割合。
 出典：日本…総務省統計局「労働力調査」、
 その他…(独)労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2015」

2. 女性活躍推進法の概要

(1)法律の概要

女性活躍推進法では、女性の活躍推進の取組を着実に前進させることを目的として、国、地方公共団体、一般事業主それぞれの責務を定め、雇用している、または雇用しようとする女性労働者に対する活躍の推進に関する取組を実施するよう努めることとされています。

このうち、常時雇用する労働者の数が301人以上の一般事業主に対しては、

- ①自社の女性の活躍に関する状況把握、課題分析
- ②状況把握、課題分析を踏まえ、(a)計画期間、(b)数値目標、(c)取組内容、(d)取組の実施期間を盛り込んだ行動計画の策定、行動計画のすべての労働者への周知及び外部への公表
- ③行動計画を策定した旨の都道府県労働局への届出
- ④女性の活躍に関する状況の情報の公表

が義務づけられています(常時雇用する労働者の数が300人以下の事業主は努力義務)。

課題の分析にあたっては、まず必ず把握すべき項目である基礎項目の状況把握、課題分析を行い、その結果、事業主にとって課題であると判断された事項については必要に応じて選択項目を活用し、さらにその結果の分析を深めることとしています。基礎項目としては、①採用した労働者に占める女性労働者の割合、②男女の平均継続勤務年数の差異、③労働者の各月ごとの平均残業時間数等の労働時間の状況、④管理職に占める女性労働者の割合があります。

(2)認定制度の概要

事業主行動計画の策定・届出を行った一般事業主のうち、女性の活躍推進に関する状況等が優良な事業主は、都道府県労働局への申請により、厚生労働大臣の定める認定を受けることができます。認定を受けた一般事業主は、厚生労働大臣が

定める認定マーク「えるぼし」を商品等に付することができ、「えるぼし」の認定基準は以下の通りで(図4)、満たしている評価項目の数に応じて1つ星から3つ星まで3段階の「えるぼし」が取得できます。

認定を取得することのメリットとして、「えるぼし」マークを自社商品や広告、求人情報に掲載することで女性が活躍している企業であることをPRできるとともに、社員の活躍を推進する企業としての認知が広がることで、女性のみならず男

図4●「えるぼし」の認定基準

認定の段階

※法施行前からの実績の推移を含めることが可能

| | |
|---|--|
| <p>1段階目</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ●認定基準のうち1つ又は2つの基準を満たし、その実績を女性の活躍推進企業データベースに毎年公表していること。 ●満たさない基準については、事業主行動計画策定指針に定められた当該基準に関連する取組を実施し、その取組の実施状況について女性の活躍推進企業データベースに公表するとともに、2年以上連続してその実績が改善していること。 ●下段の★印に掲げる基準を全て満たすこと。 |
| <p>2段階目</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ●認定基準のうち3つ又は4つの基準を満たし、その実績を女性の活躍推進企業データベースに毎年公表していること。 ●満たさない基準については、事業主行動計画策定指針に定められた当該基準に関連する取組を実施し、その取組の実施状況について女性の活躍推進企業データベースに公表するとともに、2年以上連続してその実績が改善していること。 ●下段の★印に掲げる基準を全て満たすこと。 |
| <p>3段階目</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ●認定基準の全てを満たし、その実績を女性の活躍推進企業データベースに毎年公表していること。 ●下段の★印に掲げる基準を全て満たすこと。 |

★下表に掲げる基準以外のその他の基準

- 事業主行動計画策定指針に照らして適切な一般事業主行動計画を定めたこと。
- 定めた一般事業主行動計画について、適切に公表及び労働者の周知をしたこと。
- 法及び法に基づく命令その他関係法令に違反する重大な事実がないこと。

| 評価項目 | 基準値(実績値) |
|-------------|--|
| ①採用 | 男女別の採用における競争倍率(応募者数/採用者数)が同程度 ^(※) であること (※直近3事業年度の平均した「採用における女性の競争倍率(女性の応募者数÷女性の採用者数)」×0.8が、直近3事業年度の平均した「採用における男性の競争倍率(男性の応募者数÷男性の採用者数)」よりも雇用管理区分ごとにそれぞれ低いこと) |
| ②継続就業 | i) 「女性労働者の平均継続勤務年数÷男性労働者の平均継続勤務年数」が雇用管理区分ごとにそれぞれ7割以上であること 又は ii) 「10事業年度前及びその前後の事業年度に採用された女性労働者のうち継続して雇用されている者の割合」÷「10事業年度前及びその前後に採用された男性労働者のうち継続して雇用されている者の割合」が雇用管理区分ごとにそれぞれ8割以上であること |
| ③労働時間等の働き方 | 雇用管理区分ごとの労働者の法定時間外労働及び法定休日労働時間の合計時間数の平均が、直近の事業年度の各月ごとに全て45時間未満であること |
| ④管理職比率 | i) 管理職に占める女性労働者の割合が別に定める産業ごとの平均値以上であること (※産業大分類を基本に、過去3年間の平均値を毎年改訂。) 又は ii) 直近3事業年度の平均した「課長級より1つ下位の職階にある女性労働者のうち課長級に昇進した女性労働者の割合」÷直近3事業年度の平均した「課長級より1つ下位の職階にある男性労働者のうち課長級に昇進した男性労働者の割合」が8割以上であること |
| ⑤多様なキャリアコース | 直近の3事業年度に、以下について大企業については2項目以上(非正社員がいる場合は必ずAを含むこと)、中小企業については1項目以上の実績を有すること A 女性の非正社員から正社員への転換 B 女性労働者のキャリアアップに資する雇用管理区分間の転換 C 過去に在籍した女性の正社員としての再雇用 D おおむね30歳以上の女性の正社員としての採用 |

(注) 雇用管理区分ごとに算出する場合において、属する労働者数が全労働者数のおおむね1割程度に満たない雇用管理区分がある場合は、職務内容等に照らし、類似の雇用管理区分とまとめて算出して差し支えないこと(雇用形態が異なる場合を除く。)

出典：厚生労働省作成

性も含めて優秀な学生や人材の確保につながることを期待されます。さらに、国の各府省において行う総合評価落札方式または企画競争方式による公共調達において、「えるほし」認定企業は加点評価されます。このほか、日本政策金融公庫の「地域活性化・雇用促進資金（企業活力強化貸付）」を利用する際、基準利率から-0.65%での低利融資を受けることができます。

3. 取組状況

(1) 一般事業主行動計画策定届出状況並びに認定状況等

平成28年6月30日現在における、常時雇用する労働者の数が301人以上の大企業の一般事業主行動計画策定・届出率は、全国で96.1%となっています。

また平成28年6月30日現在における認定状況は、全国で105社となっています(301人以上企業98社、300人以下企業7社)。うち、3段階目は78社、2段階目は27社、1段階目は0社です。

全国の届出状況並びに認定状況等の詳細は厚生労働省ホームページ参照

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000129028.html>

なお、行動計画や女性の活躍に関する状況の情報の公表の掲載先として、厚生労働省では「女性の活躍推進企業データベース」を開設しています。このデータベースでは、業界内・地域内での自社の位置づけを知ることができ、他社の取組状況を参照することができるほか、自社の状況を就職活動中の学生や一般の方々にアピールする場としてもご利用いただいています。

平成28年7月22日現在で6,319社が行動計画を掲

載しており、5,943社が女性の活躍に関する状況の情報を掲載しており、サイトへのアクセス数も増加しています。

女性の活躍推進企業データベース

<http://www.positive-ryouritsu.jp/positivedb/>

(2) 厚生労働省におけるその他の取組

厚生労働省では、女性の活躍推進に取り組む事業主の方を支援する助成金として、女性活躍加速化助成金を支給しています。この助成金は、一般事業主行動計画の策定・公表等を行ったうえで、行動計画に盛り込んだ取組内容を実施した時点で(中小企業のみ対象：30万円)、さらに数値目標を達成した時点で(中小企業、大企業ともに対象：30万円)申請することができます。また助成金の申請にあたっては、「女性の活躍推進企業データベース」上で行動計画等を公表することが必要です。

助成金の詳細は厚生労働省ホームページ参照

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/ryouritsu01/

また女性活躍推進法では、常時雇用する労働者の数が301人以上の一般事業主に対しては一般事業主行動計画の策定・届出等を義務づけている一方、労働者の6割以上は努力義務である300人以下の事業主に雇用されているのが実情であることを踏まえ、中小企業における女性活躍推進への取組促進に向け、平成28年度より「中小企業のための女性活躍推進事業」を新たに開始しました。本事業においては、中小企業における女性活躍推進法に基づく課題分析や行動計画策定等を支援するため、女性活躍アドバイザーによるセミナーの開催や、電話相談、個別企業訪問を実施しています。

(こうせいろうどうしょう)

「めざせ！未来のエンジニア 理系女子・男子応援プロジェクト」活動について

一般社団法人 日本自動車工業会 労務委員会

自動車メーカーでは、将来にわたり産業を支えていく若い技術者の確保・育成に取り組んでいます。また、自動車産業で働く女性の裾野を広げ、女性の活躍をさらに促進させていくことも大切な課題と考えています。

私たちは、このプロジェクトを通じて、理系への進学意欲や職業意識の醸成に向けたサポートを行うべく、「訪問授業」や「理系女子応援イベント」を実施しています。この取り組みは、中学生・高校生を中心に男女問わず幅広く展開していき、特に女性のキャリア形成に向けた支援を積極的に行っていきます。

1. 訪問授業 (写真1)

訪問授業は、自動車やバイクをより身近に感じていただくとともに、自動車メーカーの仕事内容と理系学問とのつながりを知ってもらい、理系へ

写真1●訪問授業のようす



の進学意欲や職業意識を掘り起こすことを目的としています。

自動車メーカーから女性エンジニアや担当者が興味を持っていただいた学校へ訪問し「授業」を行うケースと、教員・生徒たちが会社見学や工場見学と「授業」を受けに、企業へ来るケースがあります。

以下は授業内容の一例です。

- ①自動車産業の規模や概要の説明
- ②女性エンジニアによる講義

例：「理系を選んだ理由」「学生時代の勉強や生活」「理系学問と仕事のつながり」など

- ③実験や実演による自動車技術の紹介

例：燃料電池の原理、自動ブレーキシステムの実演など

- ④完成車展示・試乗体験会

主な訪問実績校は、表の通りです。今後、さらに訪問校を増やし理系への進学意欲や自動車メーカーへ興味を持っていただく活動を進めていく予定です。



表●訪問実績校

| | |
|------|--|
| 栃木県 | 作新学院高等学校、県立宇都宮女子高等学校、県立宇都宮中央女子高等学校 |
| 群馬県 | 県立前橋女子高等学校、県立高崎女子高等学校、県立太田女子高等学校 |
| 埼玉県 | 県立川越女子高等学校、県立熊谷女子高等学校、県立浦和第一女子高等学校 |
| 東京都 | 都立戸山高等学校、私立豊島岡女子学園高等学校 |
| 神奈川県 | 県立厚木高等学校 |
| 静岡県 | 県立浜松北高等学校、県立掛川西高等学校、浜松市立高等学校、県立浜松湖南高等学校、 県立清水東高等学校、県立沼津東高等学校、県立浜松南高等学校 |
| 岐阜県 | 県立恵那高等学校 |
| 愛知県 | 私立愛知淑徳高等学校、県立国府高等学校、県立刈谷高等学校、私立至学館高等学校、 県立三好高等学校、県立豊橋南高等学校、私立星城高等学校、名古屋市立桜台高等学校、 名古屋市立向陽高等学校、県立豊田西高等学校、県立明和高等学校、県立新川高等学校、 私立啓成高等学校、県立安城東高等学校、私立大成高等学校、県立豊田北高等学校、 県立吉良高等学校、県立小坂井高等学校、県立知多翔洋高等学校、県立古知野高等学校、 県立豊橋工業高等学校、県立西尾高等学校 |
| 三重県 | 県立伊勢高等学校、県立桑名高等学校 |
| 京都府 | 私立立命館高等学校 |
| 岡山県 | 私立岡山理科大学付属高等学校 |
| 広島県 | 私立安田女子中学・高等学校、広島大学附属中・高等学校、県立安古市高等学校、 私立ノートルダム清心中・高等学校 |
| 徳島県 | 県立徳島科学技術高等学校 |
| 福岡県 | うきは市立吉井中学校 |
| 熊本県 | 県立第一高等学校、県立第二高等学校 |

(2016年1月)

2. 理系女子応援イベント Drive For The Future ～あなたの想いを走らせる仕事～

自動車メーカーでは、働く女性のキャリアをイメージしてもらうことに加え、理系学問と仕事の

つながりを知ってもらい、『「理系」や「自動車業界」は「男性社会』という女子中高生の既成観念を取り払い、職業選択の幅を広げることを目的とした、理系女子応援イベントを2015年から14社合同で開催しています(図1)。

図1●Drive For The Future ～あなたの想いを走らせる仕事～ パンフレット



写真2●パネルディスカッション



1年目の昨年は、東京だけの開催でしたが、より多くの生徒さんに働く女性のキャリアや職業選択の幅を広げる機会を提供すべく、2年目となる今年も、東京（7月17日開催）に加え、大阪（7月16日開催）でも開催しました。

イベントコンテンツとしては、

- ①オープニング：女性人事担当者による自動車産業の概要説明
- ②パネルディスカッション：キャリアに関する女性エンジニアのディスカッション
- ③レクチャールーム：決められたテーマをもとに、女性エンジニアが実体験を講演
- ④フリートーク女子会ルーム：来場者が女性エンジニアへ疑問・質問を行う交流の場
- ⑤特設展示・体験コーナー（東京会場のみ）：自動車メーカーの最新の取り組みを展示・体験

の5つを設けました。

写真3●レクチャールーム



●オープニング

オープニングでは、自動車業界の概要や自動車メーカーの仕事内容と理系学問とのつながり、安全技術や環境技術など自動車メーカーの最新の取り組み内容について、自動車メーカーの女性人事担当者が説明を行いました。

●パネルディスカッション（写真2）

実際に自動車メーカーで働いている女性エンジニアが、キャリアに関するパネルディスカッションを行いました。

妊娠中や子どもを持つ女性エンジニアたちのディスカッションに、大阪・東京両会場の女子中高生も聞き入っているようでした。仕事への理解だけでなく、「仕事と家庭の両立」「結婚・出産と仕事」というキャリアの観点でも、“両立ってたいへんそう”という漠然としたイメージから“私でもできるかも！”といった前向き印象を持っていただけたと考えています。



写真4●フリートーク女子会ルーム



●レクチャールーム (写真3)

女性エンジニアによる実体験をもとにしたテーマ講演です。今回は「私の学生時代と勉強内容」、「私の進路選択と仕事内容」、「今なら言える！学生時代にしておけば良かったこと」、「理系で得したBest3」の4つのテーマを用意しました。今年、新たに追加したテーマの「理系で得したBest3」には、女子中高生も興味津々でした。“就職に困らない！”“幅が広がる”“経験値が増える”など、実体験を踏まえた女性エンジニアの話には説得力があります。今の勉強が将来のキャリアにどうつながっていくのかイメージを持ち、帰っていただけたものと考えています。

●フリートーク女子会ルーム (写真4)

最後は、お菓子と飲み物が並ぶテーブルで、フリートーク女子会です。少人数のこじんまりとしたテーブルであれば、女子中高生も気軽に女性エンジニアへ質問することができます。レクチャールームで話を聞いた女性エンジニアのテーブルにまっしぐらに行く中学生、気になっていた企業のテーブルを探す高校生などの姿が見られました。

フリートーク女子会は、いろんなテーブルをはしごすることが可能で、各テーブルでは、女子中高生が積極的に質問をする姿が見られ、会場は大盛況でした。勉強のこと、進路のこと、将来のこと、結婚と仕事の両立のことなど、女性エンジニアとのフリートークは、楽しそうな笑い声でいっ



ぱいで、最後まで盛り上がりました。

●特設展示・体験コーナー (写真5)

東京会場では、自動車業界の最新の取り組みを紹介するコーナーを設置しました。前輪が2つあるユニークなデザインの「TRICITY125」(YAMAHA)に興味津々でまたがったり、二酸化炭素を排出しない環境対応二輪車「バーグマンフューエルセル スクーター」(SUZUKI)に驚いたりしているようすがみられました。他にも可愛いコミュニケーションパートナー「KIROBO mini」(TOYOTA)に楽しそうに話しかける姿、パーソナルモビリティ「UNI-CUB」(Honda)に試乗し、興奮している姿など、「クルマ」という製品だけでない、自動車業界のさまざまな最先端技術に触れ、関心を持っていただける貴重な機会となりました。

これら展示・試乗体験では、女子中高生だけでなく、一緒にいらっしゃった先生や保護者の方々も一緒になって楽しんでいました。

●各会場でのようす

<大阪>

今年、初めて開催した大阪会場に来場した女子中高生は、女性エンジニアの話に熱心に耳を傾け、最後まで一人も帰ることはありませんでした。特にフリートークは、大いに盛り上がりを見せ、女

写真5●特設展示・体験コーナー



出展品

トヨタ自動車株式会社：
KIROBO mini
スズキ株式会社：
バーグマン フューエルセル スクーター
ヤマハ発動機株式会社：
TRICITY125
本田技研工業株式会社：
UNI-CUB



子中高生は、積極的にいろいろな女性エンジニアへ質問を行い、会話を楽しんでいました。女性エンジニアたちも、熱心に質問をする女子中高生から元気ももらい、疲れが吹き飛んだことと思います。

<東京>

今年で2回目の開催となる東京会場では、たくさんの文理選択前の女子中高生が集まってくれました。引率の先生だけでなく、保護者の方々も大勢来場されるなど、保護者の方々の進路や職業選択に関する関心の高さに驚かされました。保護者のお一人に、このイベントをどこで知ったのかを尋ねたところ、保護者自身が、留学している娘さんの一時帰国に合わせ、将来を考えさせるイベントに参加させようと、探したそうです。学校に加え、保護者への働きかけを行っていくことの重要性にも気づかされました。

●イベントのまとめ

女性エンジニアたちの実体験を踏まえた率直な話が、『「理系」や「自動車業界」は、男社会』という女子中高生の固定観念を取り払い、理系か文系か進路選択に迷っている女子中高生たちの参考になったのではないかと考えています。また、自動車業界のことも身近に感じていただき、将来の職業選択に関しても良いイメージを持っていただけたと考えています。

●参加者からの感想



あゆさん

文理選択に悩んでいましたが、今日の講演を聞き、「理系もいいな！」という気持ちになりました。進路のことも何もわからなかったけど、技術者の

方と直接お話しすることで、とても良い有意義な時間を過ごすことができました。楽しかったです。



るりかさん

クルマに興味はありませんでしたが、クルマの話だけでなく、中学・高校時代の話も聞けて勉強になりました。

参加して良かったです。



あやねさん

以前から理系に進みたいと思っていたので、参考になりました。

自分の将来がさらに広がったような気がしました。

だくため、自工会では本年度より、取り組み内容を紹介した理解活動パンフレットを作成しました。関係省庁・教育委員会などの行政機関への配布や、各社が訪問授業で学校を訪れる際にも使用しています。

また、JAMAのホームページにも、専用のコーナーを立ち上げました。経団連や内閣府など、同様の活動をしているホームページともリンクを貼り、お互いの活動を周知するようにしています。

4. 最後に

私たち自工会の「めざせ！未来のエンジニア 理系女子・男子応援プロジェクト」活動は、まだまだ始まったばかりです。今後も、理系への進学意欲を高め、将来にわたり自動車産業を支える人材の確保・育成をしていくとともに、自動車産業も、業界全体で女性の活躍促進に取り組んでいきます。

3. 広報活動 (図2)

こうした活動を、より多くの方々に知っていた

(にほんじどうしゃこうぎょうかい)

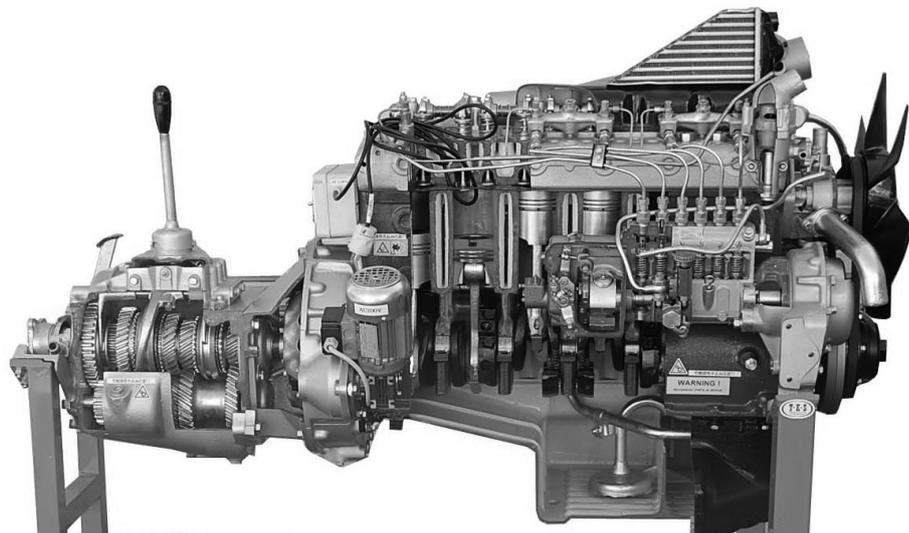
図2●自工会の広報活動

<パンフレット>



<ホームページ>





ピストンなどの複雑な構造や動きも、わかりやすく再現されたカットモデル。

(写真提供：ユニバース)

クルマの中身を勉強しよう——自動車工学教材の世界

[JAMAGAZINE編集室]

[第78回]

ステアリングやブレーキの仕組み、エンジンの構造など、クルマやバイクの内部機構を見ることができる「カットモデル」という模型。クルマ好きなら一度は目にしたことがあるのではないだろうか。あるいは技術科の授業で見た人もいるだろう。これらの模型は、整備士を養成する専門学校など、自動車のメカニズムを学ぶための場において、教材として使用されている。ものづくりの基盤を支える、大事な勉強の道具なのだ。見たことはあるけれどよく知らない、自動車工学教材の世界に迫ってみた。

●本物のエンジンを使っています

今回、カットモデルなどの教材メーカー・(有)ユニバースの塩野 洋司(しおの ようじ)社長にお話を伺った。

——さっそくですが、「カットモデル」や「エンジン実習装置」といった教材は、どのように作っているのですか？

「これらは、実物を加工して製作しています。エンジンやステアリング、タイヤ、シートなど、実際にクルマから部品を取り出して、分解・洗浄・塗装して組み立てます。カットモデルなら一部を切断したり、動作モデルならモーターをセットしたりなど、教材として加工しています」
——購入されるのは、やはり自動車の専門学校などでしょうか？

「約40年前の創業当初は、自動車教習所向けの教材を製造していました。当時はクルマのメカニズムに関する授業や試験があったので、ブレーキやエンジン、信号機などの教材を作り始めたのがきっかけです。その後、教習所ではメカニズムについ

ての授業を行わなくなったので、学校向け教材にシフトしました。

現在では自動車大学校など、クルマの仕組みを学ぶための専門学校はもちろんですが、中学校の技術科や工業高校、職業訓練校、大学などで教材として使用していただいています。それ以外では、自動車メーカーのほか、ブルドーザーなど建設機械の教材も扱っているのです。それらのメーカーからの需要もあります」

●精巧で緻密な立体模型

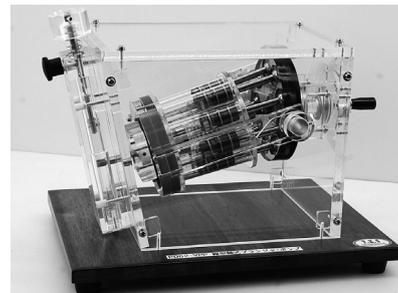
——エンジンなど、丈夫な部品を加工するのはたいへんそうですね。

「もちろん、分厚い金属板を切断したり、問題なく動作するように組み立てたりするのは苦勞します。ただ、実物をそのまま使用できるという点では、ある意味楽だともいえます。弊社では、エンジンやトランスミッションなどの機構を学ぶための立体模型も製作していますが、こちらは設計から組み立てまですべてを行っているのです。さらに時間がかかります」

ここで、同社のアクリル製立体模型を見せていただいた。斜板式プランジャ・ポンプと呼ばれる高圧ポンプの動作模型で、複数のピストンが連動するのだが、全体が傾いてピストンが斜めになっても滑らかに動くように、アクリルと金属ジョイントが組み合わされている。

——これはすごく精巧ですね。

「こういった立体模型では、弊社は長い経験と高い技術を持っています。他社ではほぼ扱っていないので、ニーズが多い製品です。材料であるアクリル板の加工だけでなく、着色の技術や動きの精密さは高いものと



非常に精密な、プランジャ・ポンプの立体模型。

自負しています。お客さまに納品すると、まず「きれいだ」と言ってもらえます。もちろん、動きの精度などについては、ご納得・ご満足いただけていると思います。また複雑な教材や、内部にオイルが入っている教材などもあるので、修理・メンテナンスのサービスも行っています。

この製品は、お客様のニーズに合わせて、どういったモデルにするか設計するところから始めています。モデルについての理解と、加工の技術がないと作れません。ピストンなど動く部品が多いですから、始めたころは、動きを繰り返して傷がついたり、部品のかみ合わせが悪かったりといったこともありました」

●模型好きとクルマ好き

—HPの会社紹介では『模型好きとクルマ好きが集まって作っています』とありますが、やはりクルマがお好きな方も多いのですか？

「そうですね。やはり実物の部品

を使っていますから、クルマ好きの知識が生きてきます。またアクリルと金属を組み合わせた可動モデルもあるので、素材それぞれの加工についてなど、いろいろな模型を作った総合的な知識と技術が求められます。弊社では、1台の製品は基本的にひとりで担当しています。技術者それぞれが、失敗があればそれを生かして、もっとスムーズに動くようにするには…などと考えながら、技術を磨いています。長年やってきた経験と、できたときの喜びを原動力に、けっこう楽しんで作っています。

また、お客様の求めるものに対して、プラスアルファできるか…もっときれいに見やすくするには、教材として役に立つ情報を入れるには、といった工夫をするのが、技術者の楽しみでもあります。最近では、技術解説ソフトウェア「ムービーコム」に、合成音声のナレーションをプラスしています。これも「おもしろいからやってみようよ」というところ



トランスミッション、サスペンションなどさまざまな教材がある。

から始まったのですが、教材を使う先生の助けになるように、お手本のナレーションを入れようという発想です。音声合成のソフトウェアが使えるようになったことも大きいです。経験の積み重ねと工夫、そして技術の進歩をあわせて、教材に生かしていきたいです」

●新しい技術に対応する教材

—製品では、ハイブリッド車のエンジン模型など、新しい技術に対応した製品もありますね。

「やはり新技術が出てくると、専

いろいろな教材があります

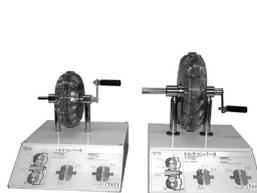
同社では下に挙げたものをはじめ、10種類以上の教材があり、それぞれ最大50~60品種がラインアップされている。

●カットモデル



エンジンやステアリング、トランスミッションなどの内部構造を学ぶ教材。実車のパーツを切断して、カット面や重要な部品を着色しており、構造と機能の説明・理解が容易になっている。

●立体模型



透明アクリル素材を使用した3次元教材。複雑なパーツで構成された機構の仕組みや動きが、どの方向からも見ることができる。モーター内臓で動作するものやLEDを組み込んだものも。

●エンジン実習装置



実車のエンジンを使用した教材。実際に始動させたり、分解・組み立てたりして、構造や機能を学習できる。エンジン単体以外に、タイヤや運転席までをセットにしたタイプもある。

●その他



図解がアニメーションする教材ソフト、電気回路実習装置、動く掛図、CGを使用したビデオ教材などのほか、特別注文で要望に応じた教材も製作。

(写真提供：ユニバース)

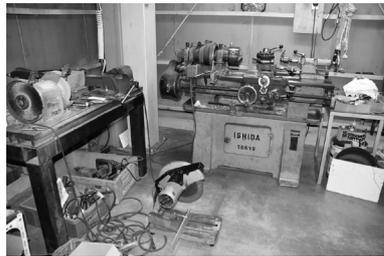
なかなかたいへん。自動車工学教材のつくりかた

担当技術者の方にお話を伺うと、カットモデルで一番たいへんなのは、やはりカット工程とのこと。エンジンなど大きな部品は、どの部分をどうやってカットするかが考えどころ。厚さ数cmの鋼板なので、大型の電気ノコギリで切断したり、フライスと呼ばれる大型工具で削ったりするが、大きくて機器にセットできないこともあるので、手持ちのノコギリやグラインダーといった工具で、少しずつ切ったり削ったりすることもあるという。地道な作業なのだ。また、内部構造をよく見せるためにはどこをカットするか考えたり、分解・組み立てに特殊な工具が必要になったりすることもあるそうだ。動作モデル教材なので、部品が後々も問題なく動くように、組み立てにも気を遣うという。動く教材ならではの苦勞である。

一方アクリル立体模型では、設計からアクリル板の切断、可動部分の組み立てまで、基本はひとりの技術者が担当している。顧客のニーズを把握して設計し、細かい部品を組み合わせて、スムーズに動くようにするのはたいへんだという。アイデアと技術が求められる仕事である。



分解されたエンジン。この後、カット→塗装→組み立てという工程をたどる。



大小さまざまな工具。やはり実車の部品を加工するとなると、整備工場並みの道具が必要。



アクリル立体模型の組み立て工程。可動部分の組み立ては、細やかな、根気のいる作業だ。

門学校などから教材の需要が出てきます。教材という商品の性質上、“教科書に載っている技術”を対象にしているのですが、まだ普及していない技術については対応していないものもあります。ニーズのある教材を作るのが基本ですが、将来を見据えて準備は進めています。例えば電気自動車関連では、商品化はしていませんが、電動バイクの教材を試作しています。今後も自動運転やソーラー

カーなど、新しい技術についての教材や実験用具なども必要になると考えています」

——これまで制作したもので、特注品など、自慢の品といえるようなものはありますか？

「自慢というわけではありませんが、弊社製品でも一番の“大物”が、ブルドーザーなど建機用の大型8速トランスミッションのアクリル立体模型です。普通自動車用のトランス

ミッション模型と比べると、3倍くらい複雑だと思います。それだけギアの精度も高く、ある意味芸術品と言ってもいいのではないかと、いうくらいで、値段も一番高いです(笑)。またこれも建機用の、ハイドロスタティックステアリングという機構の立体模型も、精密でパーツの動きも見やすく、お客様が「これ1台あればカットモデルもいらさないな」というくらい、精巧なモデルになっています」

今後、展示会や博物館などでこうした模型を目にすることがあれば、高度な技術と地道な作業の積み重ねに、思いをはせていただければと思う。

有限会社ユニバース HP
[URL] <http://www.tksam.co.jp/>

(JAMAGAZINE編集室)



大型8速トランスミッション立体模型。会議室の机でないと乗せられないほどの大きさ。
(写真提供：ユニバース)

業界のすそ野の広さを痛感

山田 諒

日刊工業新聞社



◇私事で恐縮だが、自動車産業記者会には2月に赴任してきた。それまでは、千葉と東京23区で、業種関係なく中小企業や県庁、市・区役所、経済振興を手がける外郭団体を中心に取材をしてきた。これまでの取材方法とは少々勝手が違って、現在でも戸惑いを隠すことができていない。

◇以前の担当のときに、まったく自動車と縁がなかったかという、そういうわけではなかった。2011年、記者がいろんなことを体験するルポ企画を担当していて、日産自動車の電気自動車(EV)「リーフ」で横浜-名古屋間を往復した。当時は東名高速道路のサービスエリアに、30分で電池を満タンにできる急速充電器が配備されたころ。企画を取り仕切る上司と、カメラマンと一緒に横浜を出発し、東名をベースに充電器のある箱根山の頂上などにも登った。頂上に着いたときの電池残量は約2%で、止まってしまうのではないかと冷や冷やしたことは、今でも鮮明に覚えている。

◇それ以外にも、自動車との縁を感じる事柄があった。イベント「全日本製造業コマ大戦」を取材したときだ。このイベントは、日本全国の町工場が自前の技術を駆使して作った直径2センチメートルのコマを、土俵上で競わせる競技。中小企業の技術力発信などを目的に、2012年に横浜でスタートした。当時千葉で記者をしていた私は、取材先の町工場から誘いを受け、このイベントに参加した。全国から数多くの町工場

の社長や従業員が一堂に集うため、取材をしていくうちに彼らと仲良くなっていく。彼らの仕事は多くが金属加工業。特に、大手自動車メーカーの孫請けとして日ごろビジネスをしている。ふれあっていくうちに、少しながら自動車部品の品質への要求の厳しさや、日本の自動車をこんなにも多くの人たちが支えているのかと感ずることができた。

◇日本の企業の99%は中小企業といわれている。日本の産業を支えている存在であるし、それは自動車産業も例外ではない。複数の町工場の社長らは「以前は1社の自動車メーカーの仕事のみをしてきたが、現在は複数社の仕事を受けている」と話してくれた。リーマンショックなど世界的な経済異変が続いたことや、世界展開するメガサプライヤーの台頭など複数要因が絡んでいるが、自動車産業がそれだけ産業の隅々にまで入り込んでいると感じた。

◇町工場以外にも、素材メーカー、化学メーカー、石油メーカー、電機メーカーはもちろん、クルマ用消臭剤を作る日用品メーカーなどまで自動車産業が関わる産業の幅広さには、ただただ舌を巻くばかりだ。

◇日刊工業新聞は産業総合紙の位置づけで、自動車産業をはじめとするさまざまな産業を、業種の規模に関係なく伝えている。読者に少しでも有益な情報を伝えられるよう、今後いっそう精進していきたい。

(やまだりょう)

2016年8月3日

●第3次安倍第2次改造内閣の発足について

安倍改造内閣は、安定的な政治基盤の下、アベノミクスを更に加速させるための強力な布陣となっており、安倍総理のリーダーシップのもと、600兆円経済、一億総活躍社会、地方創生の実現に向け、成長のスピードを引き上げていただけることと大変大きな期待をしております。

英国のEU離脱に関する国民投票結果の影響、新興国経済の減速、為替水準の急激な変動など、世界経済が不透明な状況にある中、新内閣におかれましては、こうしたリスクが日本経済にマイナスの影響を及ぼすことのないよう取り組んでいただくとともに、昨日閣議決定した「未来への投資を実現する経済対策」を実施し、デフレ脱却と経済再生を確実に実現していただきたいと考えております。

自動車業界を取り巻く環境は、国内では依然として内需に力強さを欠いており、新内閣におかれては、自動車ユーザーの過度な税負担軽減に向けた自動車税制の抜本的な見直しの実現に着実に取り組んでいただくことを望んでおります。

また、グローバルに事業展開する自動車業界にとっては、自由貿易協定によるビジネス環境の整備が競争力強化に極めて重要な役割を果たすことから、TPPの早期発効および日-EU EPAの年内合意など経済連携協定の促進を積極的に進めていただきたいと思います。

我々自動車業界としても、引き続き地域経済や雇用確保に貢献し、政府の政策を最大限利用し、国内市場の活性化や国際競争力の強化に向けて全力で取り組んで参ります。

一般社団法人 日本自動車工業会 役員名簿

2016年7月25日

| | | | |
|----------|--------------|------------------|---------------------|
| 会 長 | 西 川 廣 人 | 日産自動車株式会社 | 代表取締役 CCO兼副会長 (非常勤) |
| 副 会 長 | 豊 田 章 男 | トヨタ自動車株式会社 | 代表取締役社長 () |
| 〃 | 八 郷 隆 弘 | 本田技研工業株式会社 | 代表取締役社長 社長執行役員 () |
| 〃 | 小 飼 雅 道 | マツダ株式会社 | 代表取締役社長 () |
| 副会長・専務理事 | 永 塚 誠 一 | | (常 勤) |
| 常務理事 | 内 藤 政 彦 | | () |
| 理 事 | 細 井 行 | いすゞ自動車株式会社 | 代表取締役会長 (非常勤) |
| 〃 | 片 山 正 則 | 〃 | 代表取締役社長 () |
| 〃 | 原 山 保 人 | スズキ株式会社 | 代表取締役副会長 () |
| 〃 | 鈴 木 俊 宏 | 〃 | 代表取締役社長 () |
| 〃 | 三 井 正 則 | ダイハツ工業株式会社 | 代表取締役社長 () |
| 〃 | 横 山 裕 行 | 〃 | 代表取締役副社長 () |
| 〃 | 加 藤 光 久 | トヨタ自動車株式会社 | 代表取締役副社長 () |
| 〃 | 早 川 茂 | 〃 | 取締役・専務役員 () |
| 〃 | 佐 藤 康 彦 | 〃 | 常務役員 () |
| 〃 | 坂 本 秀 行 | 日産自動車株式会社 | 取締役 副社長 () |
| 〃 | 松 元 史 明 | 〃 | 取締役 副社長 () |
| 〃 | 川 口 均 | 〃 | 専務執行役員兼CSO () |
| 〃 | 市 川 正 和 | 日野自動車株式会社 | 代表取締役会長 () |
| 〃 | 市 橋 保 彦 | 〃 | 代表取締役社長 () |
| 〃 | 吉 永 泰 之 | 富士重工業株式会社 | 代表取締役社長 () |
| 〃 | 近 藤 潤 | 〃 | 代表取締役副社長 () |
| 〃 | 倉 石 誠 司 | 本田技研工業株式会社 | 代表取締役 副社長執行役員 () |
| 〃 | 松 井 直 人 | 〃 | 執行役員 () |
| 〃 | 寺 谷 公 良 | 〃 | 執行役員 () |
| 〃 | 金 井 誠 太 | マツダ株式会社 | 代表取締役会長 () |
| 〃 | 古 賀 亮 | 〃 | 専務執行役員 () |
| 〃 | ○山 下 光 彦 | 三菱自動車工業株式会社 | 代表取締役 副社長執行役員 () |
| 〃 | ○白 地 浩 三 | 〃 | 代表取締役 副社長執行役員 () |
| 〃 | アルパート・キルヒマン | 三菱ふそうトラック・バス株式会社 | 代表取締役会長 () |
| 〃 | 松 永 和 夫 | 〃 | 取締役副会長 () |
| 〃 | 柳 弘 之 | ヤマハ発動機株式会社 | 代表取締役社長 社長執行役員 () |
| 〃 | 木 村 隆 昭 | 〃 | 代表取締役 副社長執行役員 () |
| 〃 | ヨアキム・ローゼンバーク | UDトラック株式会社 | 代表取締役会長 () |
| 〃 | 村 上 吉 弘 | 〃 | 代表取締役社長 () |
| 理事・事務局長 | 矢 野 義 博 | | (常 勤) |
| 監 事 | 今 津 英 敏 | 日産自動車株式会社 | 常勤監査役 (非常勤) |
| 〃 | 中津川 昌 樹 | トヨタ自動車株式会社 | 常勤監査役 () |
| 〃 | 杉 山 雅 洋 | 早稲田大学 | 名誉教授 () |

○印：新任

「第4回 BIKE LOVE FORUM in 兵庫・神戸」を開催

2016年8月9日

一般社団法人日本自動車工業会（会長：西川 廣人）は、9月17日（土）、二輪車関係団体や国、地方自治体とともに、神戸ハーバーランドにて、「バイクで広がる人・社会」をテーマに、「第4回 BIKE LOVE FORUM (BLF^(※1)) in 兵庫・神戸」を開催します。

本フォーラムは、兵庫県・神戸市との共催により「神戸ファッションウィーク」とのコラボレーションにておこなわれます。

- 1 日 時：2016年9月17日（土）13：00～17：00
- 2 会 場：神戸ハーバーランド スペースシアター
神戸市中央区東川崎町1-3-3、TEL078-360-3639
（神戸ハーバーランド総合インフォメーション 10：00～19：00）
- 3 主 催：BIKE LOVE FORUM 開催実行委員会^(※2)
- 4 内 容：二輪車の振興策について、取組み状況の発表や市場活性化策の議論
- 5 参加対象：BLF 主催者、報道関係者、一般の方
・報道関係者の方は、受付を設けておりますので、よろしくお願いいたします。
・一般の方もご参加いただけますので是非お越しください（参加無料）。
*会場スペースの関係上、椅子席は数に限りがありますので、ご了承ください。
- 6 その他：近隣施設の「umie」にて、国内&輸入二輪車を展示しています（10時～21時予定）。またモデルと一緒に二輪車にタンデムし写真撮影をするフォトスナップイベント（10時～17時予定）もごございますので、こちらの会場にも是非ご来場ください。

※1 BLF とは

世界に通用する素晴らしいバイク文化の創造を目指すとともにバイク産業の振興、市場の発展等を図ることを目的とし、バイクに関わる企業・団体・地方自治体等が核となり、利用者等も交え、関係者間で社会におけるバイクへの認知と受容、共存のあり方や、バイクの将来像等に関して真摯に議論し活動するもの。

（第1回：2013年9月 三重県鈴鹿市、第2回：2014年8月 静岡県浜松市、第3回：2015年9月 熊本県熊本市 開催）

※2 BIKE LOVE FORUM 開催実行委員会メンバー（順不同）

国、自治体（9）：経済産業省、三重県、鈴鹿市、静岡県、浜松市、磐田市、熊本県、兵庫県、神戸市

二輪車関係団体（8）：（一社）日本自動車工業会、（一社）日本自動車部品工業会、

全国オートバイ協同組合連合会、（一社）日本二輪車普及安全協会、

日本自動車輸入組合、（一社）全国二輪車用品連合会、

（一社）日本二輪車オークション協会、（一社）中古二輪自動車流通協会

< BLF 開催に関するお問合せ先 >

一般社団法人 日本自動車工業会 広報室 TEL：03-5405-6119

「第4回 BIKE LOVE FORUM (BLF)」 in 兵庫・神戸

開催プログラム (予定) (注1)

- 12:00 開場
- 13:00 開会 (ご挨拶)
- 13:15 二輪車産業政策ロードマップ (注2) の展開状況
<トークショー>
- 13:30 第1部: 防災とバイク (災害時の活動紹介)
- 15:00 第2部: バイク文化 (アニメ『ばくおん!!』のヒットから今を学ぶ)
- 16:00 第3部: スニーカーとバイクファッション (ASICS & JMCA コラボ)
- 16:30 フォーラム総括
- 17:00 閉会 (ご挨拶)

会場にて、神戸学院大学「防災女子」による
炊き出し、バルーンアート、木工細工教室、
自治体コーナーなど出展を行います

(注1) 事前の予告なしに開催プログラムの内容や時間に変更になる場合がございますので、ご了承下さい。

(注2) 二輪車産業政策ロードマップは、BLFの共通目標を達成するために、国内外の市場毎の政策課題を整理し、課題解決のための実行施策を取りまとめたもの。2014年5月16日に発表しました。

◆◆◆◆◆ 【神戸ファッションウィーク (KFW) 2016 AUTUMN / WINTER とのコラボ】 ◆◆◆◆◆

9月16日から開催される『神戸ファッションウィーク 2016 AUTUMN / WINTER』では、PRのメインビジュアルに、コーペアーとモコペアーがバイクにタンデムしたイラスト (下図右) が使用され、BLF in 兵庫・神戸を共に盛り上げます。また、近隣施設の「umie」にてモデルとタンデムライドをした写真が、KFW公式サイト/SNSにアップされます。

<会場案内図>

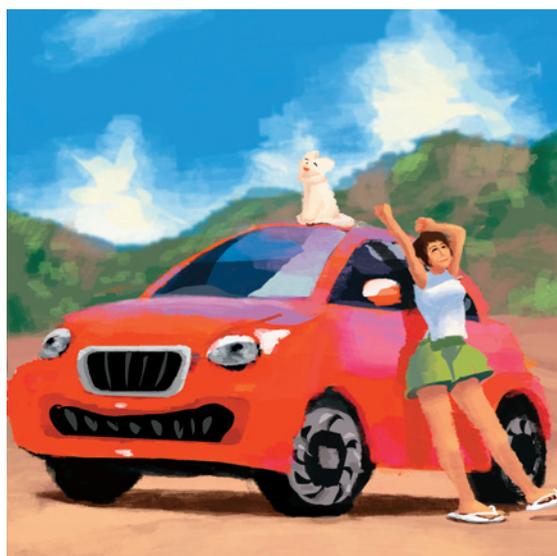


<「バイクでタンデム」イラスト>



JAMAGAZINE8月号 vol.50

発行日 平成28年8月24日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室・電話番号 03(5405)6119



JAMA

JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

自工会インターネットホームページ「info DRIVE」URL <http://www.jama.or.jp/> 自動車図書館 TEL 03-5405-6139

